
シンポジウム 5

女性泌尿器科の坂と雲～ウロギネコロジー～

座 長 羽 賀 宣 博 (福岡大学医学部 腎泌尿器外科学講座)

山 本 恭 代 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 泌尿器科学分野)

司会のことば

第 75 回西日本泌尿器科学会総会大会会長の雑賀教授より、司馬遼太郎先生の「坂の上の雲」にちなんで、女性泌尿器科の坂と雲～ウロギネコロジー～のお題をいただきました。40 歳代を過ぎ、歴史に興味を持ちだした私は歴史小説が好きで、時間を見つけて時々読んでいます。「坂の上の雲」は、好きな小説の一つです。特に司馬遼太郎先生が描き出す、秋山好古の戦場でお酒を飲みながら指揮を執る、自分にはない豪放磊落さに憧れていました。さて、今回の私たちのシンポジウムは、すでに「坂の上の雲」にたどり着いているエキスパートの先生方から、ウロギネコロジーに関して、様々な分野から講演を頂きました。

まず、福岡大学筑紫病院 泌尿器科 宮島茂郎先生からは、「TVM 手術の現状と今後」ということでご講演頂きました。TVM 術後は、新たに出現する腹圧性尿失禁や過活動膀胱にのみ注目が行きがちですが、広く術後の下部尿路症状と下部尿路機能に注視した、自施設でのデータを発表されていました。TVM 術後は、夜間頻尿と最大尿流率以外は、下部尿路症状と下部尿路機能が、ほぼすべてにわたって改善しているというデータが印象に残りました。

2 番目に、社会医療法人 北九州病院北九州総合病院 泌尿器科 新井隆司先生から、「我々の施設での LSC への工夫と展望」ということで、ご講演頂きました。新井先生は、ご自身の施設で 1000 例以上の LSC の経験を有するエキスパート中のエキスパートです。縫合操作を動画で拝見したことがありますが、ロボット手術と遜色のない、もしくは、それ以上のクオリティであったと記憶しています。その先生から手術を成功させる秘訣は、基本操作を守ることであるとおっしゃっていました。手術では、(診療全般に言えることですが。) 当たり前

のことを確実にやるということの重要性を、再認識させていただいたご講演でした。

3 番目は医療法人住友別子病院 泌尿器科 浅井聖史先生から、「RASC だけで雲は掴めるか」というタイトルでご講演をいただきました。浅井先生は最新の医療機器である手術支援ロボットを単に用いるだけでは、雲はつかめない可能性があるのも、術前の患者評価とそれに伴うバックアップ手段を事前に準備することの重要性に関して、ご自身の経験症例を交えながら、ご講演頂きました。

4 番目は琉球大学大学院医学研究科 腎泌尿器外科学講座 芦刈明日香先生からは、「腹圧性尿失禁治療の坂と雲」というタイトルでご講演をいただきました。ご自身の基礎研究のデータから、腹圧性尿失禁に対する新規薬物治療の可能性に関してもご講演頂き、大変夢のあるお話でした。また、腹圧性尿失禁に対する骨盤底筋体操に関しても力を入れておられ、自施設で骨盤底筋体操の動画を作成されており、動画サイトでのアップロードが待ち遠しいばかりです。

最後に、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 泌尿器病態学 定平卓也先生からは、「間質性膀胱炎に対する新規治療開発の坂と雲」というタイトルでご講演をいただきました。間質性膀胱炎は、治療法が確立していない難病です。ハンナ病変を有する間質性膀胱炎の患者に対して、自施設で開発された ETA システムを用いた内視鏡的塗布治療法に対して、大変強い衝撃をうけました。ご自身がご説明されていたように、これまでの内視鏡治療は、“焼く”、“切る”、“打つ” だけであったが、新たに“塗る”という治療法を開発したということでした。間質性膀胱炎に対する新たな治療の幕開けを感じました。今後の臨床応用が待ち遠しい治療法です。

あっという間の 1 時間半で、知的刺激も満足し、また明日からの診療にも役立つ内容が満載であったセッション

ンでした。本セッションにご参集いただいた先生方も、私と同じ気持ちであったと拝察いたします。次項から各

先生方の講演内容が記載されています。是非ご一読いただきたいと存じます。
